

# おうちで楽習保育®をやってみよう

(コミュニケーションあそび編)

新しい生活様式がもたらされ、おうちで過ごす時間が増えている今。そんな時だからこそ…コミュニケーションあそびで家族の絆up!しませんか。

ママ・パパの悩みに  
専門家が答えます!

**Q** 家の中で子どもと一緒に過ごす時間が増えたのですが、あそびが単調になってしまっています。ゲームや体を使う以外で、親子で楽しめるあそびはないでしょうか。(4歳/女兒のパパ)

**A** ゲームやからだを使うあそびも楽しそうですね。おしゃべりあそびも楽しいですよ。自分からすすんでしゃべりたくなったり、人とかかわり合いたくなる**コミュニケーションアイテム**をご紹介します。

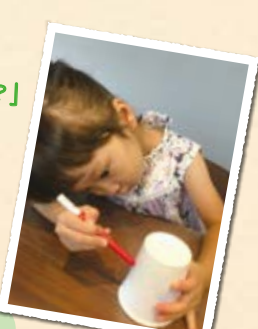
「声変わりマスク」を作ってみよう!

- <材量>**
- 紙コップ
  - アルミ箔
  - カッター または、はさみ
  - サインペン など



**作り方**

- ① 紙コップの底を丸く切り取ります。(ふちを1cm程度残す)  
※必要に応じて保護者がサポートしてください。
- ② 紙コップに色を塗ったり模様を描いたりします。
- ③ 飲み口にアルミ箔をかぶせたら完成。

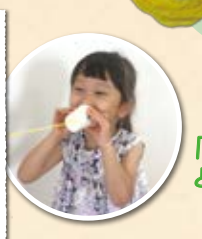
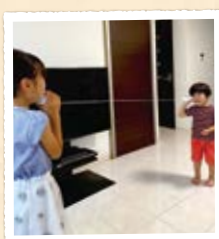


紙コップを口にあてて声を出してみると…

「声が変わる〜!」



距離をたもって楽しく会話☆



さらに!

紙コップと、毛糸やタコ糸などの紐を使って**糸電話**でお話してみるのも楽しい♪です。

紙コップの底に穴をあけて、糸を通すだけで完成! 通した糸を内側からセロハンテープでとめると、糸が抜けづらくなります。

**Q** えんぴつを正しく持つ方法をおしえてください。(5歳/男児のママ)

**A** えんぴつは、親指、人差し指、中指の三本の指でバランスよく持ちます。薬指と小指は軽く丸めて中指に沿わせるのが正しい持ち方です。自分から持てるようになる**楽しいコツ (ポイント)**をご紹介します。

悪いクセをつけてしまうと、後から修正するのは簡単ではないですし、学習能力にも影響を及ぼすと言われています。正しく持てるよう大人も見本となり、一緒に楽しく取り組みましょう。

リズムにのせて♪やってみよう!

えんぴつの持ち方 **1** **くるりん型**



えんぴつのけずった境目くらいの位置を親指と人差し指でパクッ!とはさみます。



そのまま反対の手でえんぴつを**くるりん**と手首側に反転させます。



人差し指の付け根くらいにえんぴつの軸が当たります。中指をえんぴつに沿え、薬指と小指を軽く握れば、正しいえんぴつの持ち方の完成です。

えんぴつの持ち方 **2** **指さし型**



持ち手の親指と人差し指をたてて、写真のような形を作ります。



親指と人差し指の付け根と、にぎっている中指の上にえんぴつを置きます。



親指と人差し指をえんぴつに近づけてにぎります。

えんぴつの角度も大切! えんぴつの最後(上部)が持つ手の肩の方向にむいているようにします。

良い姿勢のポイント

- ⇒ 正しいえんぴつの持ち方をする
- ⇒ 机とイスの高さを体に合わせる
- ⇒ 足の裏を常に床につけて背中を伸ばす
- ⇒ 手を正しい位置におく (えんぴつを持つ手より前に出ない)



● 市販のもちかたグリップを使ってみるのもいいでしょう。

**Q** 言葉を全然おぼえてくれません。また、何をみても全部「わんわん」と言ったりします。名前がわからないのでしょうか。(1歳/男児のママ)

**A** わからないのではなく、まだ物と名前が一致していないだけなのです。大事な成長の過程ですから、無理に教えようとしたり言葉を否定せずに受け入れましょう。日常生活の中で、見たり聞いたり感じたりしたことをたくさん語りかけてください。**豊富な言葉かけは、刺激となり発達に良い影響を与えていきます。**



大好きな「わんわん」だね! なでなでしてもらって、「わんわん」もうれしいね

ちがうよ! 「わんわん」じゃないでしょ!

否定せずさりげなく言い換えてあげましょう

きれいな黄色のお花だね。「ひまわり」っていうんだよ

専門家の声

わたなべ 渡邊 ひろみ先生

楽習保育® あそびアドバイザー

親子一緒にいる時間は、子どもとのふれあいを大切にしたいものですよね。乳幼児期は、人間形成の基礎が作られる大事な時期でもあります。ご家族とのコミュニケーションは特に重要です。コミュニケーションに必要な要素は、「感じる心」と「言葉(声と文字)」です。まず、目を見て話をしっかりと聞きましょう。まだうまく話ができない子どもに対しては、たくさん話して聞かせます。また、言いたいことを推測して代弁したり、共通の言葉を伝えたり相づちを打ったりするだけでも子どもとのコミュニケーション能力は大きく育ちます。言葉は日常生活で自然に覚えていきます。おとなの日常が子どもの教科書です。乾いたスポンジが水を吸い上げるかのように、子どもは模倣しながら何事もぐんぐんと吸収していきますよ。子どもと一緒に「きれいだね」「美味しいね」「面白いね」などの気持ちを共感し楽しむ生活は、感性と豊かな言葉を育むことにつながります。